

文 献 目 録

文 献 調 査 委 員 会

注：○掲載順序：雑誌名・巻号・発行年月・論文名・ページ数・著者
○目録欄に登録の雑誌はすべて土木学会土木図書館備付図書である。

般

土木施工 14-5 73-5

- 1 LNG タンカーバースの調査、設計から施工まで (13-20) 榎戸源則
- 2 自転車道の計画と整備 (その1) (21-28) 三谷 浩
- 3 連続地中壁のヒンジ継手 (29-37) 柳田和朗
- 4 境水道大橋の塗装について (42-49) 谷合光正

土木施工 14-6 73-6

- 5 外洋に設けた浜岡原子力発電所冷却水取水塔の施工 (13-19) 佐竹・真鍋・吉村
- 6 外洋に建設されるジャケット構造シーバース工事 (20-27) 石郷・大村・島田・砂子
- 7 裏込め注入の長距離圧送によるシールド工事の急速化—圧送距離 300m 下水幹線工事— (28-37) 西島・川瀬・山田・出頭

土木施工 14-8 73-7

- 8 太田川高瀬堰建設工事の施工 (13-20) 山下・坂田
- 9 自転車道の計画と整備 (その2) (21-29) 三谷 浩
- 10 隅田川横断沈埋工法の施工計画 (都営地下鉄 10 号線) (30-34) 吉田・高木
- 11 宅地造成事業の調査・計画から設計・施工 (その1) (38-44) 田住・三宮
- 12 わかりやすい地すべり防止技術 (第5回) —地すべりの応急対策と恒久対策 (その2) (93-97) 渡 正亮
- 13 ダム工事の施工設備計画 (その1) (45-50) 青沼英明
- 14 施工計画 (1) 矢板岸壁工事 (51-60) 渡 義治
- 15 軟弱地盤における設計、施工の考え方について (74-82) 高木博
- 16 中小都市における下水道工事の施工技術 (その10) (83-87) 森 長一
- 17 各種基礎ぐい耐荷力算定図表の利用法 (98-98) 手塚・上出
- 18 各種基礎ぐい耐荷力算定図表 (その4) (鋼管ぐい: D800, 肉厚 9, 12, 14, 16 mm) (99-102) 手塚・上出
- 19 コンクリート技士・主任技士試験 (その10) —[9] 応力ひずみ曲線 (103-108) 村田二郎
- 20 建設機械施工技術検定 (その10) 締め固め機械(109-113) 亀田敏夫
- 21 工事別安全施工技術基準と災害例 (3) —掘削と基礎工事 (その2) (116-118) 北山宏幸

建設の機械化 277 73-3

- 22 建設機械に関する国際規格 (23-48) 大橋秀夫, 外
- 23 現場フォアマンのための土木と施工法 XVII 建設機械概説 6. 締め固め機械 (その2) (67-71) 小山・遠藤
建設の機械化 278 73-4
- 24 XVII 建設機械概説 6. 締め固め機械 (その3) (73-78) 小山・遠藤

- 25 建設機械におけるリース普及の現況とその問題点 (12-21) 西尾・藤井・島村
- 26 琵琶湖総合開発計画 (29-34) 岸 謙一
- 27 コンクリートポンプによる砂防ダムコンクリート輸送 (35-40) 後藤浩平
- 28 骨材生産における濁水処理の現況 (41-48) 寺島・内田
建設の機械化 279 73-5
- 29 シールド機器に関する調査結果 (15-19) 施工技術部会・シールド委員会
- 30 福岡北九州都市高速道路の建設計画 (55-58) 後藤明治
- 31 広島大橋上部工の大ブロック工法 (59-67) 中島・新川・渡辺
- 32 SSM 式移動つり支保工について (68-75) 前田・中川
建設の機械化 280 73-6
- 33 笛吹川再開発計画の概要 (34-37) 川手良親
- 34 船明発電所計画の概要 (38-45) 前田 実
- 35 下小島発電所建設工事の概要 (46-55) 玉井・矢ヶ崎
- 36 第二鹿瀬発電所建設工事の概要 (56-60) 曾根田・石川
施工技術 6-5 73-5
- 37 本四連絡橋の計画と基礎工 (10-11) 吉田 巖
- 38 本四連絡橋の基礎工<自然条件>海象・気象調査 (12-16) 西野新造
- 39 本四連絡橋の基礎工<自然条件>測量調査 (17-19) 小暮三郎
- 40 本四連絡橋の基礎工<自然条件>航行安全調査 (20-21) 鍋島正昭
- 41 本四連絡橋の基礎工<自然条件>地質調査 (神戸・鳴門ルート) (22-24) 越智啓登
- 42 本四連絡橋の基礎工<自然条件>地質調査 (児島・坂出ルート) (25-27) 山県 守
- 43 本四連絡橋の基礎工<自然条件>地質調査 (尾道・今治ルート) (28-31) 高田志郎
- 44 本四連絡橋の基礎工 下部工設計・調査 (32-36) 富岡 紘
- 45 本四連絡橋の基礎工 試験工事 (37-41) 遠藤武夫
- 46 本四連絡橋の基礎工 作業船 (42-46) 伊藤六兵衛
- 47 本四連絡橋の基礎工 掘削試験 (47-52) 沢田茂良
- 48 本四連絡橋の基礎工 コンクリート調査 (53-57) 金沢克義
- 49 本四連絡橋の基礎工 施工計画 (神戸・鳴門ルート) (58-59) 六車真一
- 50 本四連絡橋の基礎工 施工計画 (児島・坂出ルート) (60-63) 小松育成
- 51 本四連絡橋の基礎工 施工計画 (尾道・今治ルート) (64-66) 山田勝彦
- 52 「シラス」微細構造と物理・化学的特性 (67-72) 大庭 昇
- 53 簡易海底ボーリングによる地盤調査の新しい試み (73-80) 田中・小島・佐藤
- 54 ベノト・リバース・BH 工法の応用と実施例 (81-94) 京牟礼和夫
- 55 世界一のPC橋りょう浜名大橋 (95-97) 池田 甫
施工技術 6-6 73-6
- 56 アスファルト舗装の現状と問題点 (2-6) 南雲・金谷
- 57 コンクリート舗装の最近の傾向と対策 (7-13) 飯島 尚
- 58 構造設計 舗装設計の問題点 (14-18) 植下・吉兼
- 59 構造設計 アスファルト舗装の寿命と軸重 (20-26) 田中・藤井
- 60 構造設計 軟弱路床土の構造設計 (27-32) 三浦裕二
- 61 構造設計 空港舗装の設計・施工 (33-38) 森口 拓
- 62 材料 石油アスファルトの品質の規準化 (39-43) 昆布谷竹郎
- 63 材料 アスファルト混合物の塑性流動と耐摩耗性 (44-51) 北

キ
リ
ト
リ
録

コアメモリ採用

本装置は、コアメモリによる記憶装置と、デジタル演算方式を組合せて、計測時間を一段と短縮させました。測定値は、記憶されている初期値と負荷時の値を純電子的に演算して求めます。電算機用テープさん孔機を内蔵できるので、効果的な計測データ処理に最適な機器です。

特長

- 測定点は切換器1台で100点10台まで連続可能
- 総合計測時間 0.1秒/点、100点わずか10秒
- 開始、終了点および測定点とびこしは自由に選択できる
- 自動スタート用タイマの併用で無人計測ができる
- ゲージの自己加熱の影響のない方式を採用
- 1、2、4枚ゲージ法が各点自由に選択できる
- ICを大巾に採用した高信頼型

仕様

測定点数-----
100点/1台 10台で1000点可能
測定範囲-----
0~60,000×10⁻⁶ひずみ
初期値記憶範囲-----
±60,000×10⁻⁶ひずみ
表示・印字桁数-----
10けた
精度-----
±(指示値の0.05%+フルスケールの0.005%)
標準等価ひずみ-----
±5000×10⁻⁶ひずみ

応力測定機器の専門メーカー

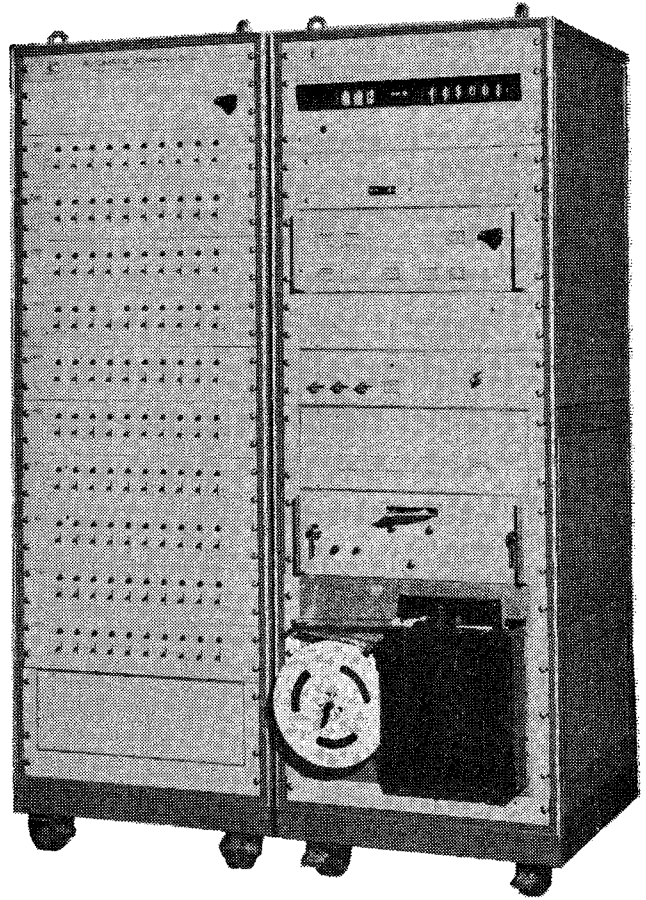
共和専業

本社・工場
東京都調布市調布ヶ丘3-5-1
電話
東京 調布 0424-87-2111
東京営業所-----502-3511
大阪営業所-----942-2661
名古屋営業所-----782-2521
広島営業所-----21-9536
福岡営業所-----41-6744
札幌営業所-----261-7629
水戸営業所-----25-1074

ひずみ計測の省力化、高速化に最適 高速デジタルひずみ測定装置

ASB100B, SD100B

・ミニコンを内蔵したオンライン型も製作しています



総合
計測時間

1点 0.1秒

村幸治

- 64 路床・路盤 路盤安定処理の設計・施工 (53-66) 林 誠作
65 路床・路盤 路床・路盤の締固めと管理 (67-74) 伊勢田哲也
66 路床・路盤 軟弱路床・路盤の施工 (75-81) 品田一男
67 表層・基層 フルデプス舗装の設計施工 (82-90) 大槻威二
68 表層・基層 アスファルト舗装の品質管理 (91-98) 斎藤安司
69 表層・基層 最近の舗装機械の動向 (99-103) 高野 漢
70 維持・修繕 舗装道路の供用性評価 (104-108) 萩原 浩
71 維持・修繕 オーバーレイの厚さ設計 (109-116) 三浦裕二
72 維持・修繕 交通車両による振動防止対策 (117-123) 奥・高橋
73 特殊舗装 交差点流入部におけるすべり止め舗装 (124-130) 長谷川・本橋
74 特殊舗装 耐摩耗舗装の現状と問題点 (131-137) 笠井謙一
75 特殊舗装 橋面舗装の現状と問題点 (138-143) 藤井治芳
76 特殊舗装 カラー舗装の現状と問題点 (144-148) 洲崎祥一郎
- 施工技術 6-7 73-1**
- 77 土木工学と地球化学 (12-15) 北野 康
79 山崩れと水質 (17-24) 北野・中村
80 地すべりと地下水の性質 (25-33) 奥田・吉岡
81 六甲山地のトンネル湧水と表流水の水質 (35-44) 鶴巻道二
82 強酸性条件下における岩質の変質と水質 (45-51) 小坂丈予
83 最近の国内文献から考えた注入工法の現状と問題点 (上) (65-74) 三木五三郎
84 公害を克服する新しい泥水処理システム (75-79) 京牟礼和夫
85 首都高速道路5号Ⅱ期線におけるSSM式ワゲンの施工 (80-91) 野崎・飯村
86 安居山の地すべり運動 (109-112) 渡 正亮
87 やさしい原価管理入門 (その3) (92-96) 野木貞夫
88 海洋土木の新しい動き (6) —海洋におけるコンクリート構造物の究明と動向 (その1) (97-103) 長崎作治
89 現場計測技術ノート (9) —場所打ぐいの現場計測— (113-118) 藤田・古賀
90 基礎工法の選び方 (14) —ケーソン基礎— (119-125) 島田・藤田
- 土木技術 28-5 48-5**
- 91 構造物の設計における確率論的方法 (3) (24-33) 西山・秋元
92 新しい軟弱地盤改良工法 (3) (34-45) 奥村・寺師・光本
93 新荒川橋梁の仮締切工事 (47-56) 溝野・結城
94 地下鉄8号線江戸川橋工区の施工 (57-67) 荒井 実
95 深礎工法とその積算 (77-84) 今井久二郎
96 最近の着目すべき施工法—ソレタンス注入工法 (5)— (89-97) 酒井・島田
97 山岳道路における基礎構造 (1) (100-108) 市川紀一
98 アースドリル工法の施工と安定液に関する最適条件 (109-119) 宮沢・山本
- 土木技術 28-6 73-6**
- 99 海洋工事の問題点と実験工事 (24-30) 手塚・小野
100 平板構造式共用ケーブルアンカーに関する二、三の検討 (31-41) 中山・森・嶋田
101 土木構造に関連した振動公害 (1) (43-52) 泉 満明
102 近畿自動車道と歌山線における橋梁, 高架の概要 (61-71) 斎木・中井
103 大井埠頭～汐留間線路増設工事 (72-81) 林 康夫

- 104 山岳道路における基礎構造 (2) (82-72) 市川紀一
105 アースドリル工法の施工と安定液に関する最適条件 (2) (96-106) 宮沢・山本
- 土木技術 28-7 73-7**
- 106 土工区間の路線選定手法の研究 (24-39) 森・大塚
107 土木構造に関連した振動公害 (2) (40-52) 泉 満明
108 塗膜, 溶射膜を接合面にもつ高力ボルト継手の耐力 (53-60) 石沢・多田・伊東
109 大島大橋の概要と海上実験工事 (69-77) 近藤・高盛・藤田 山中
110 歌津大橋工事の概要 (79-90) 木谷・伊藤
111 大井埠頭～汐留間線路増設工事 (2) (91-104) 林 康夫
- 土木技術資料 15-4 73-4**
- 112 侵食性海岸の体質を改善する話 (1-2) 豊島 修
113 自動車列荷重の実態からみた道路橋主構の設計活荷重 (3-7) 国広・朝倉
114 海砂の利用および問題点 (その2) —塩分のコンクリート中の鉄筋の腐食におよぼす影響と海砂の除塩対策 (8-15) 大場・森・坂本
115 建設省近畿地方建設局で開催された一日土研 (2) —河川, 道路部門— (23-30)
116 室内地すべり発生装置による地すべり現象の説明とその考察 (1) (16-22) 山下・白石
- 土木技術資料 15-5 73-5**
- 117 新しい建設技術政策の推進方策 (1-2) 北野 章
118 土木計画論システムの事業計画への応用に関する一考察 (3-8) 永井・岩松・井出
119 水資源開発計画および管理における手法の現況 (9-14) 花籠・小林
120 統計データ利用の現状とその方向—データベースを志向して— (15-17) 山室真二
121 土木関係文献情報の検索システム試案 (18-22) 岩松・小浪・小池
- 土木技術資料 15-6 73-6**
- 122 交差点における大気汚染の実態と規制の動向 (3-8) 金安・池尻
123 路面覆工板上の走行車両の安全性—各種加工路面のすべり摩擦係数について (9-13) 木倉・小野田
124 ダム下流の河床低下 (14-21, 49) 山本晃一
125 大型圧延H形鋼の静的曲げ試験の結果 (22-26) 国広・井上・古庄
126 砂礫層への特製型ファイナルサンプラーの適用例 (27-32) 足立・和泉
- 土と基礎 21-3 73-3**
- 127 岩盤工学の変遷と岩盤調査の体系化 (1-4) 小野寺 透
128 岩盤と岩石粗粒材の力学的物性, 挙動解析・実測などの関連 (5-14) 林 正夫
129 孔内測を利用した岩盤調査 (風化花コウ岩の場合) (15-23) 高橋・高田・石川・羽竜
130 フィルダムに用いるロック材料と軟岩の使用 (25-31) 山野隆康
131 岩盤調査の設計・施工への応用 —トンネル— (33-42) 池田和彦
132 道路土工における岩盤調査 (43-49) 松岡国太郎
133 関門橋の橋りょう基礎 地盤調査と設計 (51-58) 大橋・木本
134 岩盤の掘削 (59-65) 安達達治
135 岩盤の工学的表示方法 (67-74) 吉中龍之進



MARUI
創業50年

電気・油圧サーボシステム・自記計測のマルチ

1UP&UP

新しい万能材料試験機

電子式
実荷重計測式

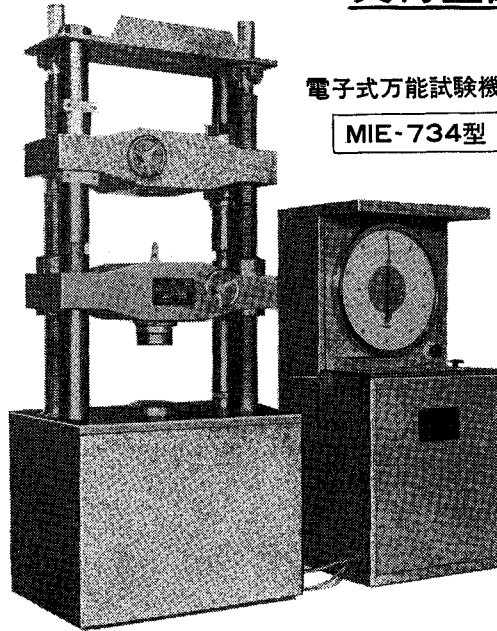
計測機構と負荷機構の分離

直接計測して、従来の間接的計測の不可抗力的要素を省きました。

- ※負荷荷重の検出は特殊型ロードセル
- ※温度変化除く特殊電気回路
- ※特殊ロードセルは引張強度の $1/2$ 以下で使用
- ※荷重負荷は多連式ポンプにて行う
- ※計測指示は自動平衡装置利用

電子式万能試験機

MIE-734型



電子式?

特殊ロードセル方式のための
完全な電子式機構

特殊ロードセルは、D・T・Fを利用精度0.1 μ 指針の動きはタコゼネレーターによる自動平衡方式。このように計測はすべて電子回路を駆使しています。

実荷重計測

多くの利点を
生みだします。

- ① 正確な計測
- ② 故障発生減少
- ③ 操作簡単
- ④ 感度上昇
- ⑤ 再現性いちじるしい
- ⑥ 負荷中レンジ切換えできる
- ⑦ 「0」調容易になった
- ⑧ 応答性早く0.5秒以内
- ⑨ 破断ショック影響受けない
- ⑩ 自記自動化が容易になった

油圧系統は負荷するだけ
計測値は関係ありません。

※詳細ご一報下さい。
すぐ参上します。

—自記自動化のトップをめざす—

—信頼を旨とす—

株式会社 **圓井製佐所**

営業品目

土質試験機	非破壊試験機
アスファルト試験機	温調試験機
コンクリート試験機	水理試験装置
セメント試験機	材料試験機



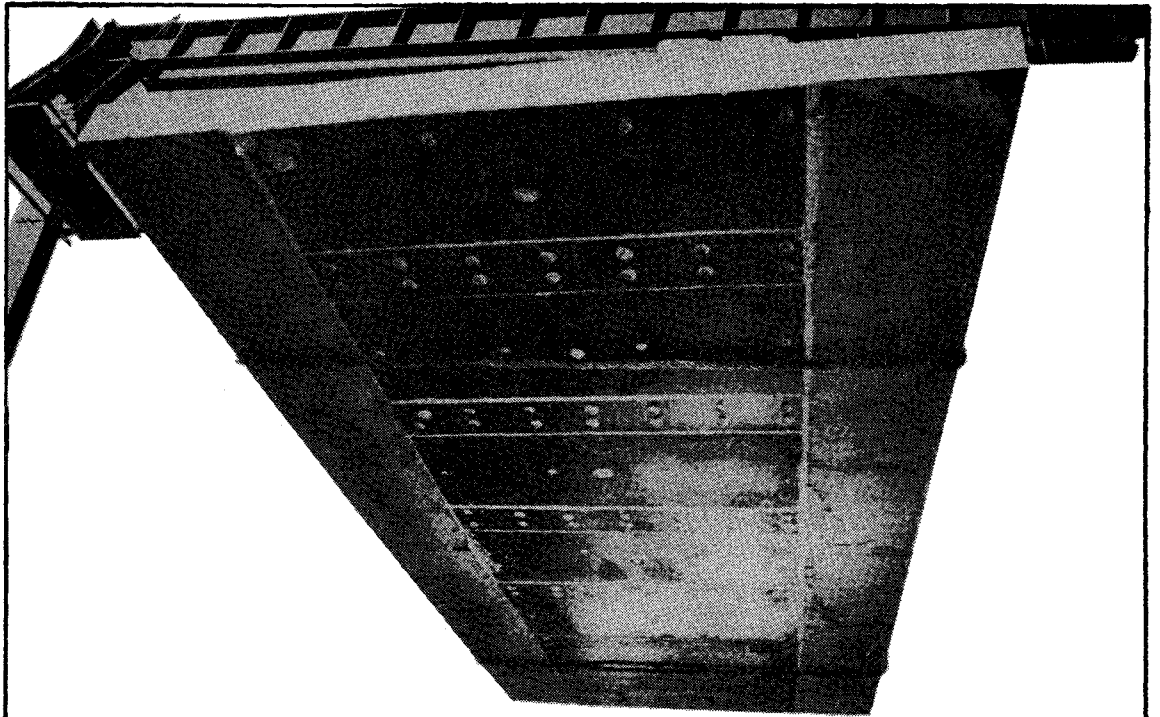
MARUI

株式会社

マルイ

東京営業所 〒105	東京都港区芝公園2-9-12	TEL 東京 (03)434-4717(代)
大阪営業所 〒536	大阪市城東区蒲生町4-15	TEL 大阪 (06)931-3541(代)
九州営業所 〒812	福岡市博多区比恵町1-6	TEL 福岡 (092)41-0950

- 136 老朽ダム池の維持管理面におけるグラウティング評価の概念 (75-81) 寺戸康隆
- 137 情報の集め方と利用の方法 12. 地盤資料(土質柱状図)の電算化と検索法 (89-94) 幾志新吉
- 138 土質分類 5. 土の判別方法 (その 1) (95-100) 今井重利
- 139 土質工学における図解法の使い方 6. モールの応力円表示と応用 (その 1) (101-107) 巻内勝彦
土と基礎 21-4 73-4
- 140 土質試験と土質工学 (3-6) 齊藤迪孝
- 141 最近の土質試験法 (7-11) 三木五三郎
- 142 物理試験結果の意味と適用限界 (13-18) 箭内寛治
- 143 セン断試験結果の適用と限界 (19-24) 中瀬・小林
- 144 圧密試験結果の適用と限界 (25-31) 網干寿夫
- 145 動的セン断試験とその結果の適用 (33-40) 小川正二
- 146 粗粒材料のセン断試験の問題点とその結果の適用性 (41-47) 岩片 透
- 147 土質試験法の手法上の要点と注意点 (主として使用されている物理試験と締固め, CBR および透水試験について) (49-55) 原 喜伴
- 148 埋立て地盤における ϕ 決定の一考察 (57-61) 石神・米山・半沢
土と基礎 21-5 73-5
- 149 山留めに作用する側圧荷重について (1-4) 古藤田喜久雄
- 150 周辺環境を考慮した山留め工事に伴う安全施工のための実測例 (13-20) 達下・坂口・杉本
- 151 山留め工の推移と展望 (5-11) 遠藤正明
- 152 多数の切バリ反力実測値から求めた山留め土圧について (21-26) 玉置・矢作・中川
- 153 根切り工事における切バリプレロード工法 (27-34) 野尻・近藤
- 154 軟弱地盤中における仮土留め工の諸測定について (35-43) 横山浩雄
- 155 読売新聞大阪本社新館新築工事における山留め設計と施工 (45-53) 遠藤・長谷川・巽・間瀬
- 156 地盤凍結工法を主とした山留めの施工例 (55-62) 櫻村 博
土と基礎 21-6 73-6
- 157 南関東の地震問題 (1-3) 萩原尊礼
- 158 クイ打公式 (動的支持力公式) の適用性 (5-8) 波田耕吉郎
- 159 アポロ計画の月調査機器と研究成果 (9-12) 伊佐喬三
- 160 青函トンネル工事の現況 (13-19) 壺坂祐三
- 161 地盤の液化化調査について (21-22) 石原研而
- 162 地震の防災対策について (23-25) 伯野元彦
- 163 深層観測井による地震予知観測 (27-31) 高橋 博
- 164 超高層ビル支持地盤の長期安定性について 一霞ヶ関ビル, 世界貿易センタービル, 京王プラザホテル— (33-38) 笹尾光
- 165 新旧土木構造物の基礎 一昭和大桥— (39-43) 桜井誠一
- 166 東京港における埋立て地盤の性状 (45-52) 清水恵助
- 167 廃棄物の性質とその埋立地盤 (53-59) 植下・桑山
- 168 オランダの最近の土質工学 (61-66) 河野伊一郎
- 169 ヘドロの土壌工学的特性とその改良 一主として八郎潟のヘドロについて— (67-94) 竹中・江崎
- 170 鋼製擁壁に加わる土圧に関する実験 (75-80) 福岡正己
- 171 超高圧 KKT 試験機による岩盤強度の測定について (81-85) 三木・湯上・雨宮
- 172 サンドコンパクションパイル打設による粘性土地盤のカク乱時の強度回復について (87-92) 榎戸・後藤・高橋・前田
コンストラクション 11-5 73-5
- 173 青函トンネルにおける乾式と湿式吹付工法 (1-6) 土屋 敬
- 174 コンパルナス吹付機によるコンクリート吹付試験 (7-22) 清水・羅
- 175 スピロクリートによるコンクリート吹付試験 (27-34) 前田・小林
- 176 油圧式吹付マニプレータによる吹付試験 (35-41) 桂木定夫
- 177 大径 P C くい指針について (43-60) 綾・西本
- 178 薬液注入工法 (73-80, 60) 島田・兼松
- 179 建設機械の故障の原因とその対策 <モータースクレーパー, その他> (81-88) 中尾秀也
コンストラクション 11-6 73-6
- 180 道路土木技術者の提案 <修景緑化工の立場から> (1-5) 倉田益二郎
- 181 緑化工における基礎工の現状と今後 (6-15) 太田重良
- 182 緑化工に導入する植物 (16-24) 堀江保夫
- 183 植生のり面工に使用する資材について <降雨装置による養> 生剤 (材) の比較試験 > (31-39) 鈴木正明
- 184 環境緑化における技術的検討 (40-43) 大山浪雄
- 185 飛砂防止緑化工の設計とその考察 (44-49) 高山, 番
- 186 大径 P C くい指針について (62-64) 綾・西本
- 187 現場技術者のための薬液注入工法 (76-84, 24) 島田・兼松
- 188 建設機械の故障の原因とその対策⑥ <トンネル用機械> (85-90) 橋場信義
コンストラクション 11-7 73-7
- 189 中国縦貫自動車道における構築物によるのり面安定工法について (1-6) 郎瀬・日水田
- 190 実態調査によるのり面安定対策工の比較検討 (7-13) 桑原・久楽
- 191 寒冷地における斜面安定工設計施工上の留意点 (14-10) 河野文弘
- 192 ブロックによる構築物のり面保護工 (27-33) 津川宏志
- 193 強化土構造による壁体造成 <その進歩と現況> (34-43) 島田・星谷
- 194 擁壁, のり面のアースアンカー工法 (44-49) 佐藤 武
- 195 のり面保護工の崩壊と復旧対策工事例 (50-56) 奥園誠之
- 196 臨海埋立・ヘドロ地の緑化工について (63-69) 本間 啓
- 197 無騒音・無振動コンクリート破壊機の概要 (70-76) 山本・山口
- 198 新年度の建設機械業界をみる ④ <締固め機械> (77-80) 編集部
測 量 14-5 73-5
- 199 沿岸海域基礎調査 1:25 000 沿岸海域地形図の内容と表現方法 (4-8) 宮坂力蔵
- 200 海洋測量用小型専用船の調査設計 (9-12) 金窪・入江
測 量 14-6 73-6
- 201 青函トンネルの測量 (4-9) 嶋田・長島
- 202 ウガンダ事情 (2) (10-14) 千葉喜味夫
- 203 三角を科学する (21-26) 井沢信雄
- 204 測量なぜ集 (3) 測量器械の倍率はなぜ決められているか (34-34)
- 205 <基礎講座> 基礎編・測量基礎数学 (1) (45-48) 尾崎幸男
- 206 <基礎講座> 実地編・地形測量 (1) (49-53) 西村隼二
- 207 <受験講座> 土地家屋調査士試験入門 (7) (54-57) 矢部六蔵
測 量 14-7 73-7
- 208 韓国における土地調査および測量の現状 (4-11) 白 殿基



鉄筋コンクリート 床版補強工事に関する初の本格的実験が終了 この実験の成果をお届けします

- 建設省より昭和47年度「建設技術研究補助金」が、当社の誇る《橋梁床版の補強技術》に対して交付され、このたび約1年がかりで終了しました。
- 実物大の床版供試体(3m×6m×20cm)を20数体作成したこの実験の方法と規模は、世界でも初めての試みとして、関係業界でも注目されていたものです。
- あらかじめ一定の予備クラックを入れたテスト床版に、種々の条件を変えた補強をした上で、大型載荷試験を行ないました。

これらの膨大な実験の成果を「鉄筋コンクリート床版補強工法の開発に関する研究報告」(A4判、75ページ)としてまとめました。

ご希望の方は住所・職名・氏名を明記の上、下記へご注文下されば無料で郵送致します。

(株)ショーボンドは、より一層の工法技術の充実をめざして、今後も益々《橋梁床版補強工法》の向上に邁進します。

株式
会社 **ショーボンド**

〒101 本社：東京都千代田区神田小川町2-1

Tel.03(292)1841(代)

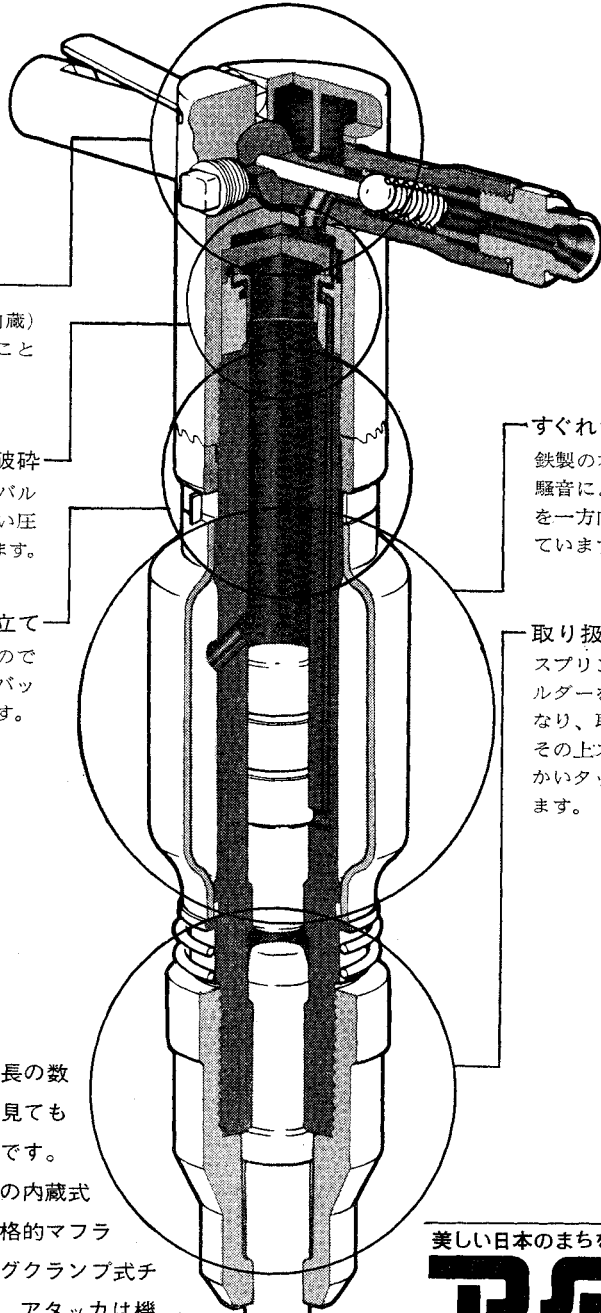
209 ウガンダ事情 (3) (12-18) 千葉喜味夫
 210 鉄道測量 (22-25) 大貫 登
 211 光波測距儀を活用する土木図根測量の新方法 (39-44) 岡野兼夫
 212 基礎編・測量基礎数学 (2) (45-48) 尾崎幸男
 213 実地編・地形測量 (2) (49-54) 西村鉄二
 農業土木学会誌 41—4 73—4
 214 カンガイにおける電算機導入のソフトウェアについて (5-10) 武上成比古
 215 注入土質安定剤の特性 (その2) リグニン系樹脂 (11-22) 高岡恭三
 216 斜面の安定係数について (23-29) 高山・国武
 217 土壌物理 (その3) / 農業土木技術者のための基礎知識 (31-35) 八幡敏雄
 農業土木学会誌 41—5 73—5
 218 47年山地災害について (4-9) 小出・宮村
 219 47年発生災害の実態 (13-18) 山瀬・増淵
 220 農地農業用施設の災害復旧 (19-24) 山口真美
 221 47年7月災害の一事例/鳥根県における梅雨前線豪雨災害 (25-29) 村田稔尚
 222 二、三の実測値による分水ゲートの特性曲線の作成について (30-35) 前川・秋山・石堂・橋
 223 模型振動ローラーによる砂質土の締固め (36-45) 吉田 勲
 農業土木学会誌 41—6 73—6
 224 石狩水系における水田用水の水管理について (5-12) 阪本・村瀬
 225 農業用利水ダムの水温とタイ砂について (13-18) 橋本・五十嵐・佐山
 226 草地造成工事における不耕起造成工法の検討について (19-21) 水洗・大橋・遠矢
 227 岳ダム基礎岩盤の力学的特性 (22-24) 宗像・松本・茂木
 228 土木構造物とその構造法に関する一考察/自然現象における生物力学の対比よりみた (25-29) 中村作太郎

——— 橋梁・コンクリート・構造 ———

橋 梁 9—4 73—4
 229 本四連絡橋架橋に関する水中発破実験について (2-10) 渡辺・奈良平・中山
 230 大型船足場“創成2号”について (11-17) 古閑・大島
 231 川崎—KSD型大口径堅型掘削機について (18-26) 亀井隆雄
 232 IHI-MENCK MRB 型単動ハンマについて (27-33) 松浦・三浦
 233 成田高架橋PC桁の製作と架設について (38-44) 関谷一三
 234 避溢橋としての変形PC連続ボックスラーメン橋の設計と施工について (45-60) 飛永良一, 外
 235 産ヶ沢川橋の設計, 施工について (61-74) 多勢・平野
 橋 梁 9—5 73—5
 236 早瀬大橋の設計, 施工について (3-11) 高本・児玉
 237 玉川高架橋および新二子橋の設計施工について (12-23) 宮原・福田・金井
 238 中央本線, 第2木曾川橋梁について (24-31) 森・福田
 239 柱の剛度が異なりクイ基礎構造の水平力の分担について (46-53) 長谷川・山木
 橋 梁 9—6 73—6
 240 明石海峡大橋における創成2号・金剛による海底ボーリング調査について (3-9) 宮島圭司
 241 石部海上橋下部工の施工について (10-17) 大部・吉本・上坂

242 日石喜入原油中継基地4号栈橋における大口径鋼管グイの計画と施工 (18-28) 茂田井洋一
 243 MODEC-フジタ工業の共同開発による新大村空港建設理立用可動浮栈橋について (29-34) 武藤郁夫
 244 沿岸構造物の一, 二の問題 一消波構造と直立構造一 (35-42) 吉岡秀雄
 橋梁と基礎 7—5 73—5
 245 施工時の地震荷重の決め方についての一提案 (1-4) 栗林・岩崎
 246 フランジ有効幅に関する最近の研究の展望 (5-11) 山村・成岡
 247 軽量コンクリートを用いた特殊薄肉プレキャスト床板(コンボスラブ)の載荷実験 (12-17) 古津・小松
 248 黒之瀬戸大橋の橋梁工事 (18-28) 増永勤三
 橋梁と基礎 7—6 73—6
 249 車両制限令の改正に伴う特認荷重について (1-5) 村上順雄
 250 徳徳高架橋における基礎グイ工事 (6-17) 田中・多田・長井・山本
 251 大河津橋の歩道添加 (18-24) 東・後上・相馬
 252 橋の強さ (25-27) 堀井健一郎
 253 Finite Strip Method による曲鋼床板の解析 (28-36) 大宮司 尚, 外
 254 南港連絡橋上部工の設計とその問題点(上) (37-43) 笹戸・河井
 255 橋梁用コンクリート工場製品(下) (44-50) 大西清治
 橋梁と基礎 7—7 73—7
 256 構造物の経済化について (その1) 池田 甫
 257 仮締切兼用鋼管矢板井筒工法による橋梁基礎の設計 一岡山県水島大橋下部工一 (6-14) 富田・富永・榊
 258 南港連絡橋上部工の設計とその問題点(下) (15-21) 笹戸・河井
 259 構造用鋼からなる細長い不完全性のある圧縮部材の終局耐荷力に及ぼす横荷重の影響 (22-28) 成岡・伊藤
 260 オーストラリアの橋梁の変遷 (29-34) 井上・佐々木・森安
 261 高速道路の橋梁計画 (40-46, 39) 足立 洪
 プレストレスト コンクリート 15—2 73—3, 4
 262 プレストレッシング用機器の進歩 (2-15) 西山啓伸
 263 最近のヨーロッパにおけるPC橋とその施工について 一特に大型架設機械による一 (16-23) 椎 泰敏
 264 津市民プール新築工事の設計と施工 (24-29) 鎌田・樋口・渡辺・市村
 265 コンクリート構造連続桁のクリープによる不静定力の一般式について (30-35) 外崎 忍
 266 液化天然ガス(LNG)の貯蔵へのプレストレストコンクリートの応用 (36-43) 山本勝郎
 267 PCプレテンション桁を連続構造として使用した古川3号避溢橋の設計と施工について (44-52) 飛永良一, 外
 268 断面組立方式によるプレキャストカルパートの試験施工について (54-60) 加藤 寛, 外
 コンクリートジャーナル 11—3 73—3
 269 コンクリートの細骨材率ならびに単位水量を求むる実験式に関する研究 (1-12) 赤沢常雄
 270 端部に切欠きのある軽量鉄筋コンクリート部材に関する一実験 (13-19) 吉原・西岡
 271 首都高速4号II期線高架橋の現場施工の現状と施工管理 一確率論的設計手法の一資料として一 (20-30) 秋元・松浦
 272 鉄筋コンクリート・プレストレストコンクリート設計計算

これがアタッカのすべて!



耐久性が一段とアップ
内蔵式潤滑機構(オイルを内蔵)により部品の耐久性を強めることにも、長時間使用できます。

少ない圧気消費量で強力破碎
効率のよいダイレクトフローバルブを採用していますので少ない圧気消費量で強力な破碎を發揮します。

ハンマー1つで分解、組み立て
バックヘッドはクラッチ式なので分解、組立てが簡単、しかもバックヘッドの回り止めが確実です。

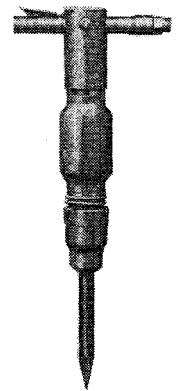
現場の要望にお応えする特長の数かず。アタッカはどこから見てもどこを取りあげても一級品です。ブレーカーとしては国内初の内蔵式潤滑機構を採用。さらに本格的マフラー、突起部のないスプリングクランプ式チャックホルダーの採用など、アタッカは機能性と使いやすさを特に留意して開発した画期的な新製品です。

すぐれた消音効果

鉄製の本格的マフラーを装備して騒音による疲労防止、また排気孔を一方にして楽な作業を約束しています。

取り扱い操作性とも抜群

スプリングクランプ式チャックホルダーを採用したため凸部がなくなり、取扱いやすくなりました。その上スロットルレバーのやわらかいタッチが作業を一層容易にします。



美しい日本のまちをつくるらくらくブレーカー

アタッカ

アタッカ20・アタッカ30の2機種あります。

発売元

Ⓐ 東洋さく岩機販売株式会社

東京本・支店：東京都中央区日本橋3-11-2
支店・営業所：大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

製造元 Ⓣ 東洋工業株式会社

アタッカ

資料請求券

土木学M・9

詳しい資料をご希望の方は
資料請求券をはがきに貼って下記へお送り下さい
広島市外府中町
東洋工業(株)広報部宣伝企画課宛〒730-91

- 入門/4. 設計計算の基本的条件 (31-41) 森田司郎
- 273 コンクリート試験方法 (第5回) 5. ミキサの練りまぜ性能試験 (42-50) 加賀秀治
溶接学会誌 42-2 73-2
- 274 溶射被膜と素材の密着機構および境界部の構造について (3-11) 北原・蓮井
- 275 繰返し荷重下におけるステンレス鋼ならびにその溶接部の応力腐食割れに関する研究 (第3報) (12-17) 渡辺・向井・黒岩・下田
- 276 エレクトロスラグ溶接現象の研究 (第4報) (18-25) 安藤・仲田・和田
- 277 ガラス繊維強化ポリエチレンの溶接性に関する研究 (第2報) (26-33) 木村・山口・坪川
- 278 高張力鋼溶接ボンド脆性破壊の防止に関する研究 (第3報) (34-45) 佐藤・合田・川原
- 279 溶接熱影響部の結晶粒粗大化に関する研究 (第1報) (45-57) 井川・新・大重
- 280 軟鋼サブマージアーク溶接金属の機械的性質におよぼす磁気攪拌の影響 (58-68) 柴田・浅井
- 281 日本における溶接構造物の脆性破壊発生に関する研究 (その1) (69-90) 木原・佐藤・豊田
溶接学会誌 42-3 73-3
- 282 アーク溶接過程における水素の挙動 (第1報) (3-15) 坪井・中野・佐藤
- 283 ガラス繊維強化ポリエチレンの溶接性に関する研究 (第3報) (16-22) 木村・山口・坪川
- 284 サブ・ゼロ溶接法について (第1報) (23-31) 益本・香名
- 285 パラジウムろうによるステンレス鋼継手の高温性質 (32-38) 雀部・岡根・田辺
- 286 溶着金属の気孔生成に関する研究 (第1報) (39-49) 宇田・大野
- 287 スポット溶接における適正溶接条件の決定法に関する研究 (50-61) 中根・華表
- 288 ステンレス鋼平板の点加熱による塑性ひずみ (62-72) 佐藤・藤本・小田
- 289 <溶接構造物の疲労強度> 溶接鋼構造の疲労設計理念 (73-80)
- 290 <溶接構造物の疲労強度> 疲労強度からみた溶接継手の分類 (81-90)
- 291 <溶接構造物の疲労強度> 溶接継手の疲労強度向上法 (91-96)
- 292 <溶接構造物の疲労強度> 疲労強度による溶接構造物の損傷例 (96-100)
接接学会誌 42-4 73-4
- 293 部分とけこみ溶接継手の変形挙動と強度 (10-22) 佐藤・瀬尾・樋口・矢田貝
- 294 軟鋼のろう付強度におよぼす表面状態の影響 (第6報) (23-31) 末沢芳文
- 295 アーク溶接過程における水素の挙動 (第2報) (32-40) 坪井・西馬
- 296 3.5% ニッケル鋼溶接金属の熱間割れに対するジルコニウムチタンおよびマンガンの効果 (41-50) 益本・玉置・香名
- 297 厚板 HT-80 鋼のサブマージアーク溶接の研究 (第一報) (51-63) 坪井・寺嶋
溶接学会誌 42-5 73-5
- 298 軟鋼のろう付強度におよぼす表面状態の影響 (第7報) (74-86) 末沢芳文
- 299 アーク溶接過程における水素の挙動 (第3報) (87-98) 坪井・平井・広
- 300 オーステナイトステンレス鋼熱影響部における結晶粒界挙動に関する研究 (第2報) (99-109) 田村・渡辺
溶接学会誌 42-6 73-6
- 301 爆発圧接金属のマイクロ組織の透過電子顕微鏡による観察 (第一報) (12-19) 山下・恩沢・石井
- 302 軟鋼のろう付強度におよぼす表面状態の影響 (第8報) (20-32) 末沢芳文
- 303 軟ろう付用フラックスの作用機構に関する研究 (第2報) (33-37) 木原・岡本・大森
- 304 アーク溶接過程における水素の挙動 (第4報) (38-47) 坪井・寺嶋
- 305 厚板のプラズマアーク溶接に関する研究 (第一報) (48-60) 土屋九一, 外
- 306 有限要素法による熱弾塑性挙動の解析 (61-71) 上田・山川
- 307 継手強度の見地からみた溶接金属と適合性に関する一考察 (72-81) 佐藤・豊田
- 308 複合材料の特性とその溶接性 (82-95) 新 成夫
溶接技術 21-4 73-4
- 309 建築鉄骨におけるナローギャップ片面アーク溶接法(NOW法)の開発と実用化 (21-28) 中山 浩
- 310 横向きナローギャップ MIG 溶接について (29-37) 大石 実, 外
- 311 ステンレス鋼のナローギャップ溶接 (39-44) 木村一彦, 外
- 312 造船におけるナローギャップ溶接 (45-53) 飯塚真平, 外
- 313 建築鉄骨におけるナローギャップ溶接 (55-62) 亀井俊郎, 外
- 314 わが国の造船で初めて採用された NC プラズマ切断の実用化 (63-68) 大野伊左男, 外
- 315 最近の抵抗溶接機の傾向 (81-86) 野沢正彦
- 316 抵抗溶接において溶接部に発生する欠陥とその対策 (87-92) 浜崎正信
- 317 ソ連におけるレールのフラッシュ溶接 (93-96) 行俊次郎
- 318 亜鉛メッキ鋼板のスポット溶接とシーム溶接における進歩 (97-105) Ganowski, H. J., 外
- 319 SM-50 鋼材の downwards 肉付サブマージアーク溶接における割れ (109-113) 鈴木丈夫, 外
- 320 エピ銅鋼管のガス自動切断装置について (115-117) 松田国雄
溶接技術 21-5 73-5
- 321 溶接割れに及ぼす水素の影響 (21-27) 藤井忠臣
- 322 高張力鋼の遅れ割れ (29-33) 大野恭秀, 外
- 323 高温割れに及ぼす炭素および硫黄の影響 (35-40) 渡辺 潔, 外
- 324 高温割れに及ぼすリンの影響 (41-47) 小平一丸
- 325 高張力鋼溶接部における再熱割れについて (49-54) 小林卓也
- 326 鋼クラッド鋼の溶接について (55-58) 横山博臣
- 327 高張力鋼・低温強靱鋼の電子ビーム溶接法 (59-63) 矢田 浩
- 328 消耗ノズル式エレクトロスラグ溶接法によるプレスフレームの改造 (64-68) 吉田 清, 外
- 329 耐熱材料のろう付 (69-84) 雀部 謙
溶接技術 21-6 73-6
- 330 異種金属の溶接における問題点 (21-32) 新 成夫
- 331 鋼とステンレス鋼の溶接 (33-39) 足立正博
- 332 異材管の突合せ爆接について (41-44) 佐藤次彦, 外
- 333 オーステナイト系ステンレス鋼とフェライト系低合金鋼の異材溶接について (45-56) 清水茂樹, 外

川鉄の 建設用鋼材

厚鋼板・床用鋼板・エンボス鋼板・垂鉛鉄板・着色亜鉛鉄板・ステンレス鋼薄板・鋼管・鋼管矢板
照明用鋼管柱・H形鋼・Hフレーム・H形鋼支保工・組立式橋梁KHB・鋼矢板・棒鋼・高張力異

形棒鋼・コルゲートパイプ・コルゲートフリューム・コルゲート骨材ビン・コルゲートセル・ライナープレート・スチールセグメント・溶接棒

川崎製鐵株式会社

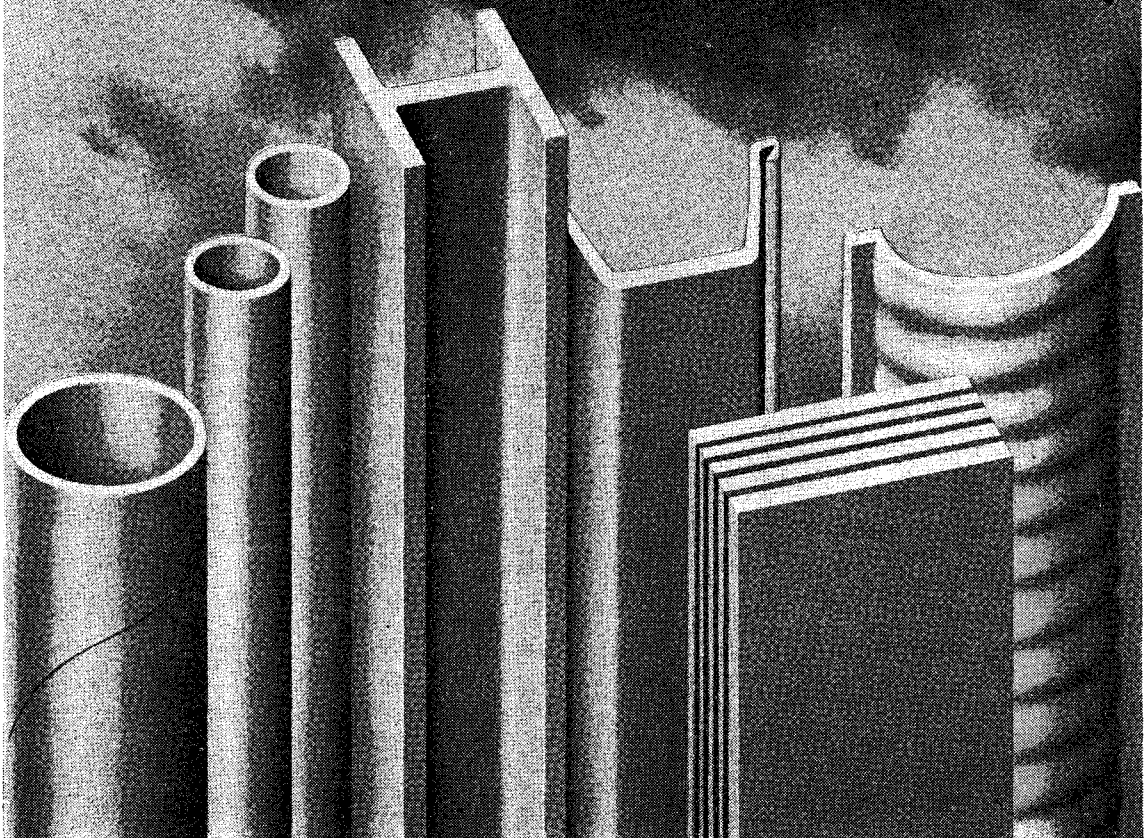
東京営業所：東京都千代田区有楽町1-11(新有楽町ビル)

電話：東京(03)212-4511 千109

大阪営業所：大阪市北区小塚町3-1(阪急ターミナルビル)

電話(案内台)大阪(06)373-6111 千109

明日を築く



- 334 異種金属の拡散溶接 (57-62) 寺井 清
 335 プラズマ溶接の現状と問題点 (63-71) 西口公元
 336 水中におけるプラズマ溶接 (73-78) 蓮井 淳
 337 プラズマアーク溶接による厚板の溶接 (79-83) 松永恒文, 外
 338 プラズマ溶接における溶加材送給について (84-88) 田口裕也
 339 球状黒鉛鑄鉄管のプラズマ溶接 (89-92) 芦田敏行
 340 プラズマジェット溶接法について (93-100) 中村武三, 外
 341 軟鋼の高速エアープラズマ切断について (101-102) 行俊次郎
 342 プラズマの現状と将来について (103-108)
 343 I 形狭間先での炭酸ガス自動溶接法 “HV 法” について (109-113) 浪花俊勝

発電・水理・防災

大 ダ ム 63 73-3

- 344 フィルダム土質材料特性と設計例 (1-12) 勝俣 昇
 345 高いロックフィルダム設計 (13-35) 菊池 昭
 大 ダ ム 64 73-6
 346 ダムの建設が貯水池および貯水池周辺の住民に与える影響 (1-7) 華山 謙
 347 貯水池の堆砂形状およびダム上流の河床変動の予測 一実用計算手法と実河川に対する計算例一 (8-14) 浅田 宏
 348 跳水・スキージャンプ併用式減勢工の設計 (15-28) 大橋・阪部・安芸
 349 シリーズに建設されたダム群のダム放流管理用シミュレーションモデルについて (29-39) 岩田・田村
 350 ダム直下発電所屋根版を兼ねる余水吐シュートの構造設計と洪水時の振動の吟味 (40-50) 鈴紀・桜井・角本
 水利科学 17-1 73-4
 351 原子力による海水淡水化 (1-13) 外山茂樹
 352 河口淡水湖児島湖における物理環境の変化 (14-36) 奥田節夫
 353 水資源計画国際シンポジウムに出席して (37-47) 中沢式仁
 354 地すべりと地下水 (I) (48-71) 申 潤植
 水利科学 17-2 73-6
 355 治山と治水 (1-12) 河田五郎
 356 地下ダムのおいたち (13-31) 松尾新一郎
 357 下水道の今後の事題 (32-53) 井前勝人
 358 水田農業用水の計画需要量の推定法 (54-65) 岡本雅美
 359 農村地域の水源涵養機能 (66-87) 金子 良
 360 地すべりと地下水 (II) (88-95) 申 潤植
 361 エチオピアにおける天然水の性質について (96-113) 近藤忠三
 水温の研究 17-1 73-5
 362 宇宙からの表面水温の観測 (2-11) 渡辺貫太郎
 363 霞ヶ浦の水質保全について (12-21) 広瀬利雄
 地すべり 9-4 73-5
 364 常時微動と地すべり地への応用 (1-8) 島 垣
 365 地すべり地における地温測定調査について (5) 一地温に関する因子について一 (9-16) 竹内篤雄
 水 と 土 13 73-6
 366 農業土木技術者のための公害ノート (1-5) 岡本雅美
 367 水質管理の現状と問題点 (6-9) 駒村三義
 368 土壌汚染について (10-20) 戸塚理光
 369 土地改良と水質 (21-26) 掛川正司
 370 農村環境と水質保全 (27-42) 山内一郎
 371 都市近郊の農業と基盤整備について (43-50) 吉岡孝信
 372 水路コンクリートの腐食と防食について (51-62) 中谷・尾崎・葛上

- 373 水質調査の実例一都市近郊の水質汚染 (63-70) 許斐建次郎
 374 かんがいの計画基準年について一かんがい計画技術のシステム化 (71-74) 伊藤 光
 375 エコロジー (75-79) 上床一義
 376 農業水利計画とコンピュータ (2) (80-90) 白石・中道・岩崎

道路・トンネル・鉄道・都市計画

道 路 386 73-4

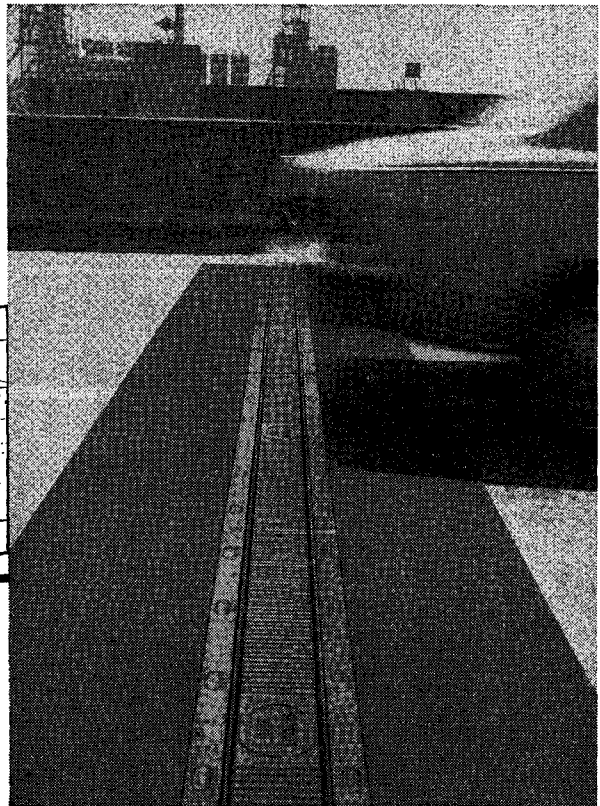
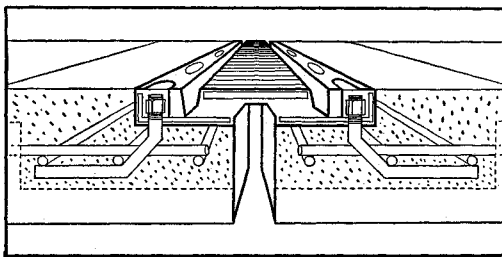
- 377 交通負荷量による道路の機能分類 (65-70) 福井・肥田木
 378 歩行者専用道路 (71-75) 西 建吉
 379 親不知の防災工事 (76-84) 渡辺・今井
 道 路 387 73-5
 380 経済社会基本計画と社会資本整備 (2-15) 結城康雄
 381 第7次道路整備5ヶ年計画の策定について (16-23) 松下勝二
 382 道路環境と植樹 (24-30) 橋本正之
 383 新交通システムの概要 (31-36) 深水正元
 384 ガソリン税の経緯をみる (37-43) 平口 洋
 385 交通容量算出ノモグラム (77-93) 森本・佐々木
 道 路 388 73-6
 386 新しい国土総合開発の方向 (2-6) 海野恒男
 387 筑波研究学園都市と街路事業の概要 (7-12) 鶴町輝博
 388 土木研究所の筑波研究学園都市移転計画 (13-17) 松野三郎
 389 沖縄縦貫道路計画 (18-25) 伊藤直行
 390 首都高速4号線八重州トンネル工事報告 (26-33) 菊地真琴
 391 茨城県における過積載通行の実態 (34-37) 西野正夫
 392 欧州諸国の道路環境政策 (38-43) 保田悠紀雄
 トンネルと地下 4-4 73-4
 393 着工に入った神戸市地下鉄の全ぼう (3-7) 古林・高岸
 394 甲府盆地に延びる中央自動車道笹子トンネルの計画と現状 (8-18) 西村嘉隆
 395 埋設管をつり防護したシールド工事 (19-29) 佐藤・神田・山瀬
 396 三陸縦貫鉄道 77 km のトンネル (39-49) 広川慶三
 397 5.3 km を2年で完成 山陽新幹線竹原トンネル (50-56) 大塚本夫
 398 青函トンネルの注入材料 (30-33) 清水・秋田
 399 爆破入門 (1) (57-60) 金原・篠原
 400 下水道トンネル入門 (2) (61-66) 橋本・佐藤
 401 裏込用エアモルタルとその施工に関する実際 (69-72) 古川・菊地・秋田
 トンネルと地下 4-5 73-5
 402 江東デルタ地帯のシールド工事 一都営地下鉄10号線一 (11-24) 吉田収一
 403 稲城砂層に挑む大断面トンネル (25-31) 森藤真治
 404 地すべりと湧水を克服 一国道252号山中トンネルの施工一 (46-51) 牛村・小柳
 トンネルと地下 4-6 73-6
 405 パイロットシールドによる大規模開さく工法 一地下鉄8号線銀座一工区 (14-24) 猪瀬二郎
 406 自然と調和した坑口, 東北高速道路・愛宕山トンネル (25-29) 多勢・神戸・桑野
 407 青函トンネルの施工 (1) 北海道側海底部について (39-46) 北村・梅宮
 408 線路直下の地下鉄工法 (48-55) 安・平島
 409 13 km の下水道トンネル 多摩川流域下水道野川幹線 (56-66) 井上・本重

新時代のジョイント!!

橋梁・高架道路用伸縮継手

トランスフレックス®

伸縮量が大きい—最大330mm(特殊660mm)までのものがあります



2時間で硬化する

超早強度無収縮ポリエステルコンクリート

スタ-コンクリートP

も製造しております。

技術に生きる

ニッパ



新田ベルト株式会社

本社 〒541 大阪市東区博労町4丁目30

電話 大阪(06)251-5631(大代表)

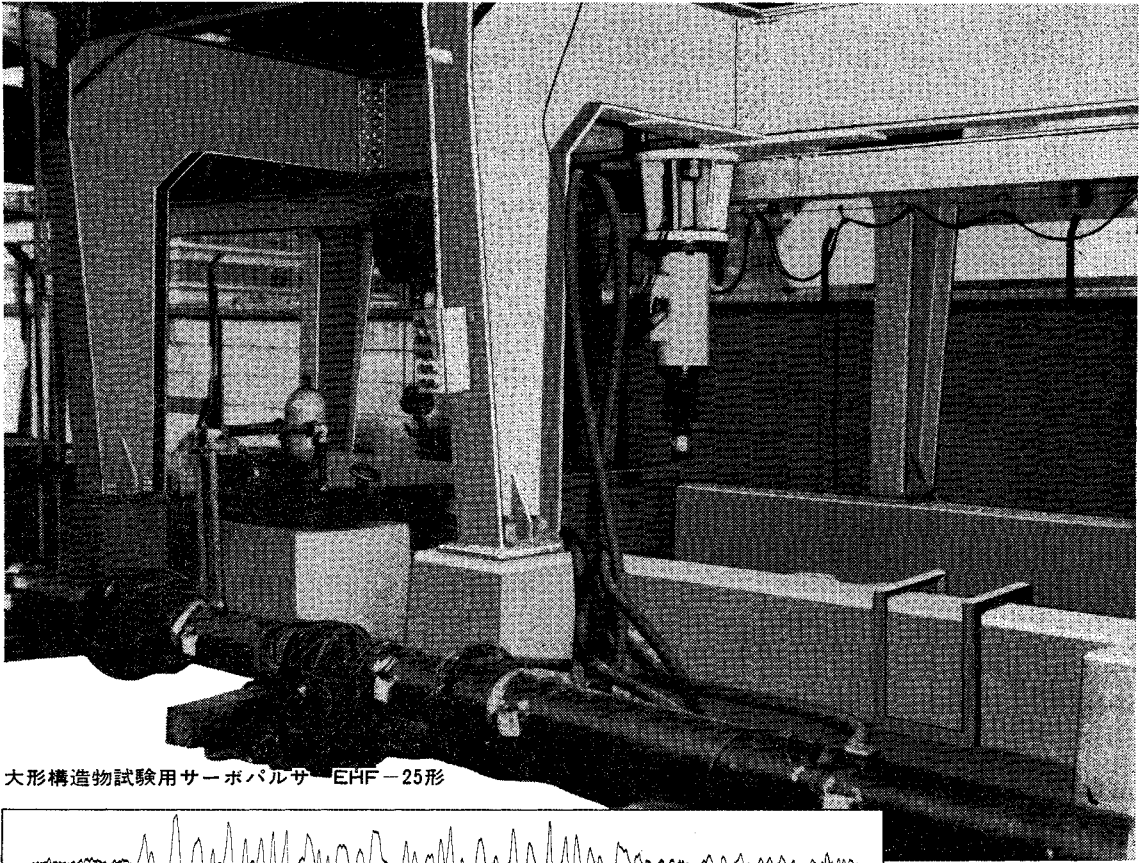
東京支店 (03) 572-2301 福岡営業所 (092) 74-4546

名古屋支店 (052) 586-2121 北陸出張所 (0762) 65-6235

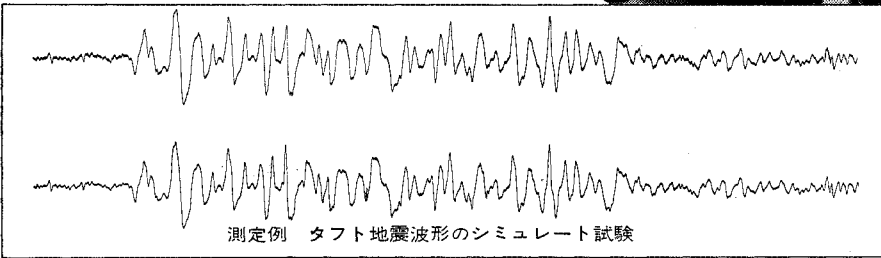
札幌営業所 (011) 241-0858 広島出張所 (0822) 81-7350

※資料請求は当社開発課まで
お申し出下さい。

- 410 難工事に挑む恵那山トンネル(87-93)トンネル用機械の手びき小委員会
- 411 地下鉄工事における積算のシステム化(3-13)遠藤・中川
トンネルと地下 4-7 73-7
- 412 青函トンネルの施工(2)北海道側海底部について(3-8)
北村・梅宮
- 413 36kmの房総導水路トンネル機械化施工の実績調査(16-30)
稲葉延寿
- 414 東京港海底トンネルの施設(47-56)忍見明男
- 415 札幌市地下鉄の全ぼう(57-63)秋山忠禧
- 416 トンネル掘さくにおける地表沈下について(9-15)宮下和夫
- 417 岩石の破壊技術と将来のトンネル掘さく技術(65-69)高橋彦治
鉄道線路 21-4 73-4
- 418 高速用レール端曲がりの輪重変動におよぼす影響 一線形ばねの場合の理論計算一(42-44)黒田定明
鉄道線路 21-5 73-5
- 419 コンクリート道床における短まくらぎ保修(4-6)諏訪省一
- 420 保守用車使用基準規程解説(下)(7-9)黒田昭三
- 421 継目用レール締結装置の設計(43-45)梅田静也
鉄道線路 21-6 73-6
- 422 コンピュータ化される在来高速軌道検測車(7-9)大田幸夫
- 423 京葉線羽田トンネルスラブ作業車による施工(10-16)井上・山崎
- 424 低炭素合金鋼製三枝ポイント(17-19)鳥越信一
- 425 レール締結装置補修(マルチプルパワーレンチ)作業標準(21-23)桜沢 正
- 426 西ドイツの鉄道(2)一軌道保守を中心として一(27-31)草木陽一
- 427 河川改修に伴う鉄道橋りょう改良(32-34)牧添親男
- 428 列車ダイヤについて(1)(35-39)浦野昇治
- 429 東急電鉄における保線の近代化および踏切道の対策(40-44)鈴木・河合
- 430 レール溶接の実務(45-47)広瀬政司
- 431 山陽新幹線Pまくらぎ用レール締結装置の設計試験(48-49)梅田静也
鉄道土木 15-4 73-4
- 432 トンネル湧水の実態(6-10)石井政次
- 433 バングラデッシュ鉄道の罹災報告(上)(11-14)黒木正典
- 434 ルッセル工法によるトンネル掘削に伴う地表沈下<東海道貨物別線片倉トンネル>(15-18)飯田堅雄
- 435 地下工事における建造物の下受工法(上)<新橋地下駅>(19-22)平山正三
- 436 連続立体交差化工事(1)連続立体交差化の概要(23-26)高橋 勉
- 437 連続立体交差化工事(2)単純連続立体交差化工事<東海道本線静岡駅付近高架>(26-30)藤田義雄
- 438 連続立体交差化工事(3)線増連続立体交差化工事<山陰本線松江駅付近高架>(31-34)岡山和夫
鉄道土木 15-5 73-5
- 439 都営地下鉄10号線大島基地の計画(6-9)田中・望月
- 440 大阪市地下鉄2号線天王寺一長原間の建設計画(11-14)竹山・石田
- 441 バングラデッシュ鉄道の罹災報告(下)(15-19)黒木正典
- 442 地中連続壁工法による地下鉄本体構築壁の施工<大阪市地下鉄2号線北部延進工事>(21-26)有富・前田
- 443 余部橋りょうの保守(27-31)細川・松本
- 444 地下工事における建造物の下受工法(下)<新橋地下駅>(33-36)平山正三
鉄道土木 15-6 73-6
- 445 47年度の主要災害から 1. 山地荒廃による土砂崩壊(11-18)小橋澄治
- 446 47年度の主要災害から 2. 直接基礎橋りょうの倒壊(橋りょう検査の着眼点)(18-24)浜田達幸
- 447 47年度の主要災害から 3. 路盤関係の災害(24-27)柴崎和夫
- 448 建造物取替標準の中間報告から 1. 鉄けた保守の着眼点(31-35)足立成之
- 449 建造物取替標準の中間報告から 2. コンクリート構造物保守の着眼点(35-39)松本・宮坂
- 450 3. 切取り面採点表の再検討と落石管理の考え方(39-43)小橋澄治
- 451 防災管理システムの紹介 1. 集中豪雨(45-49)浅野 芳
- 452 防災管理システムの紹介 2. 気象庁の新しい観測計画(50-53)木村耕三
- 453 防災管理システムの紹介 3. 災害警報の搬送装置(54-56)神吉卓三
- 454 降雨時における運転規制の見通し 1. 九州総局管内(66-68)酒井数夫
- 455 降雨時における運転規制の見通し 2. 金沢局管内(68-70)山崎幸造
- 456 防災投資の基本的な考え方(79-81)牧添親男
- 457 鉄道防災と砂防(上)(75-78)野崎晃司
J R E A 16-4 73-4
- 458 経済社会の転換と鉄道(1-5)溝畑靖雄
- 459 貨物輸送の将来(6-9)島垣正純
- 460 新幹線騒音(14-18)宮本俊光
- 461 騒音の影響と評価(19-23)山村晃太郎
- 462 車両基地構内作業における近代化の構想(30-33)畠中 達
J R E A 16-5 73-5
- 463 待望の武蔵野線開業を迎えて(1-7)舟田正男
- 464 武蔵野線の運営管理(複線 CTC)(8-11)高山行雄
- 465 都営地下鉄10-000形車両とATO装置(21-25)渡辺忠敏
- 466 コンピュータ利用による車両運用検修システムの構想(26-29)畠中 達
J R E A 16-6 73-6
- 467 高速車両の粘着限界(1-4)白井誠造
- 468 高速集電技術の現状と将来(5-8)岩瀬 勝
- 469 高速運転と軌道(9-12)池守昌幸
- 470 マルス105システム(13-17)林・竹井
- 471 大都市における新交通システム(18-21)東 暉久
- 472 鉄道貨物の近距離輸送(22-26)山本利三郎
- 473 新しい大都市用モデルバス(27-29)吉永徹郎
- 474 札幌市地下鉄のトータルシステム(30-35)米沢和夫
都市計画 75 73-5
- 475 大都市圏における住宅供給の波及過程に関する研究(9-16)天野・柏谷
- 476 都市高速度鉄道の延長に伴う郊外住宅地の形成と通勤交通の発生(17-30)渡辺・所
- 477 首都圏近郊整備地帯における工業立地(31-37)平間和夫
- 478 首都圏における事務所の規制と誘導について(38-43)黒・稗田
- 479 郊外地開発の実態と問題点 一日本住宅公団の場合一(44-59)浅谷陽治



大形構造物試験用サーボバルサ EHF-25形



測定例 タフト地震波形のシミュレート試験

ランダム波形，実働波形を正確に再現

島津サーボバルサは、最新の電気油圧式サーボ機構、すなわち閉回路制御系を巧みに応用した振動・疲労試験機。大出力で広い周波数範囲をもち、正弦、三角、方形波のほか、最近とくに重要視されてきたランダム波、実働波による試験も容易にできます。すぐれた安定性と、高い制御精度を備えており、土木、建築、航空機、自動車、車両、船舶、原子力、電気、機械、金属、非金属工業など、あらゆる分野における新しい研究と品質管理に最適です。島津サーボバルサには、疲労試験機EHF形と振動試験機EHV形の2種類があり、それぞれの試験目的に最適の各種形式を用意しています。

電気油圧式振動疲労試験機

島津サーボバルサ



島津製作所

精機事業部

●カタログご請求・お問合せはもよりの営業所へ
東京 296-2217 / 大阪 373-6607 / 福岡 27-0331 / 名古屋 563-8111 / 広島 48-4311 / 京都 211-6161 / 札幌 231-8811 / 仙台 21-6231 / 神戸 331-9661 / 大分 36-4226

603 京都市北区紫野西御所田町1 (075)431-2111

第7回トンネル工学に関するシンポジウム申込書
(トンネル施工の省力化と建設公害対策)

<会告参照>

① 種別	② 参加者氏名	③ 勤務先, 役職名	④ 連絡先住所氏名										
	(〒)												
	(〒)												
	(〒)												
	(〒)												
	(〒)												
	(〒)												
④ 連絡先住所氏名			電話:										
⑤ 参加者	<table border="0"> <tr> <td>会 員</td> <td>5,000 円 ×</td> <td>名</td> <td rowspan="2">合 計</td> <td rowspan="2">を</td> </tr> <tr> <td>非会 員</td> <td>5,500 円 ×</td> <td>名</td> </tr> </table>	会 員	5,000 円 ×	名	合 計	を	非会 員	5,500 円 ×	名		により	月	日に送付した。する。
会 員	5,000 円 ×	名	合 計	を									
非会 員	5,500 円 ×	名											

1. 記入要領: (1) 種別は, 会員, 非会員の別を記入して下さい。
 (2) 勤務先, 役職名はなるべくくわしく記入して下さい。
 (3) 連絡先住所氏名は参加券などをお送りするのに便利な宛名を記入して下さい。
2. 申込方法: (1) この申込書に参加費を添えて 11 月 10 日までに土木学会事業課宛お申込み下さい。
 (2) 満員の際はお断りすることがありますのでなるべく早日にお申込み下さい。
 (3) 受付は着金の順に行ないますのでご了承下さい。